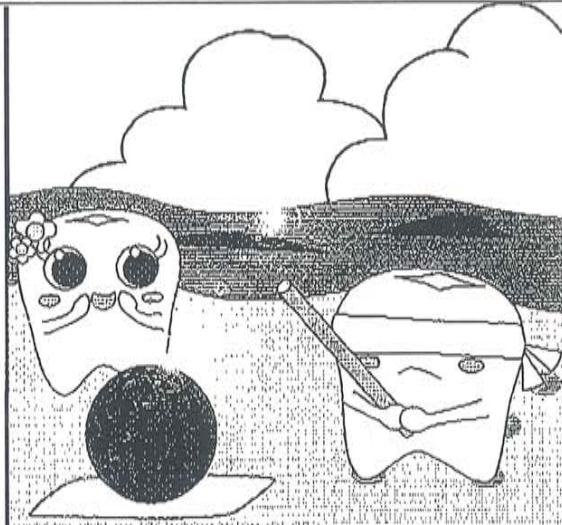


皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？
くまさんデンタルクリニック、院長の北澤和也です。
今回は「神経を取る」ということについてお話ししました。
正式には神経を歯髄(しずい)と呼び、細菌が歯髄まで侵入してしまっ
た場合には痛みを取るため、そして歯を残すために歯髄を除去する
必要がある、という内容でした。
この神経を取る治療について、実際にどのように行われているの
かをご存知ない方が多いのではないのでしょうか。そこで今月は、
具体的な「神経の治療方法」をご紹介しますと思います。患者さん
の病状や歯科医師の治療方針により異なる場合がありますが、こ
こでは一般的な治療方法をご紹介しますと思います。

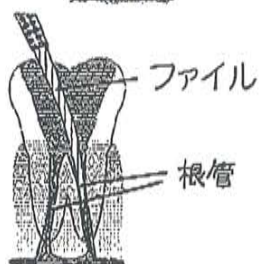


① 歯髄の除去と清掃

麻酔後、むし歯部分と歯の上部を削り歯髄を露出、除去します。歯髄は歯の咬み合わせ面から5~8mmと比較的深い場所にあります。

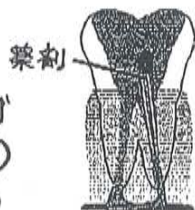


次に歯の根っこ部分の根管(こんかん)という細い管の中にある歯髄を取り除きます。針金のような専用の器具(ファイルやリーマー)を用いて、やすりがけする感じで根管の壁を削り取りながら、狭い根管を拡げます。細菌汚染された歯髄が残っていると、後々違和感があったり、腐敗して根の先に病巣をつくることもありますので、洗浄・消毒をしっかりと行います。根管は根っこと同じ数だけ枝分かれしています。通常前歯で1本、奥歯で2~3本ありますが、すべての根管を同様に、歯髄除去・清掃します。



② 薬剤充填と補強

根管がきれいになったら形を整え、歯髄を除去した後の空間に棒状のゴムの薬剤(ガッタパーチャポイント)を緊密に充填し、無菌状態が保てるように処置します。



根管の治療が終わったら、歯に金属を詰めたり被せたりして、歯が欠けないように補強します。



③ 成功のポイントは・・・

感染した歯髄を根管の先端まで完全に除去して根管をきれいにするのと、根管の先端まで緊密に薬剤を詰めることが神経の治療で重要なポイントとなります。そこでこれらの処置を成功させるため器械(右：電氣的根管長測定器)やレントゲンを使って根管の長さや形状を正確に把握して治療を進めます。



◆ むし歯が痛くなくても早い段階で神経の治療を行えば、長く歯を保てます ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって
ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」と話をしていただけなのに・・・そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。
そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

くまさんデンタルクリニック

診療時間 平日9:00~19:30 土・日9:00~13:00
診療科目 一般歯科 小児歯科 予防歯科
訪問歯科
休診日 火・祝日 院長 北澤 和也

市原市白金町3-4-4

☎0436-26-3666 FAX 0436-26-3667

http://www.kumasan-dent.com